

# 第 1 章

## 第59回 日米学生会議概要

第59回日米学生会議テーマ・概要	8
参加者一覧 日本側	10
アメリカ側	11
メディアへの掲載	12

## “Advocating Japan-America Participation in Global Change”

### 太平洋から世界へ ～グローバルパートナーシップの探究と次代の創造～

「世界の平和は太平洋の平和にあり、太平洋の平和は日米間の平和にある。その一翼を学生も担うべきである」という理念の下、満州事変を契機に悪化していた日米関係を憂慮していた4人の日本人学生が太平洋を渡り、1934年日本初の国際学生交流プログラムである日米学生会議を創設した。以後、太平洋戦争勃発に伴う会議中断をはじめ数々の困難を乗り越えながら、学生同士の率直な対話が相互理解を深め、平和の実現に貢献するという創設者の信念が継承され今日に至る。日米学生会議は創設時より学生独自による会議の企画、運営が行われ、毎年夏日米交互で開かれる約1ヵ月の会議は、日米の学生による相互理解と友情を醸成する場であり続けた。第59回日米学生会議は「太平洋から世界へ ～グローバルパートナーシップの探究と次代の創造～」というテーマの下で、東京、秋田、広島、京都で開催された。

グローバル化の進展により、日米両国には環境、テロ、貧困、人権、移民などの世界規模の課題に対処するため、二国間の枠組みを超えた協力関係を築くことが求められる。その主体は決して政府に限定されず、企業、NGO、個人などを含めた多様なものになる。太平洋の平和が続き、日米関係が成熟しつつあると指摘される今、会議設立当初の理念に回帰し、地球規模の問題に対応できる協力関係、すなわち「グローバルパートナーシップ」のあり方を探究していく。

分科会活動、アカデミックなフォーラム、実際に現場を訪れるフィールドトリップ。本会議中、1ヵ月にわたる共同生活を通し、日米両国の学生が特定の利益に拘束されない率直な議論を重ねる。時には互いの価値観を衝突させ、受容しながら、自己を相対化することができ、個人間の絆を深め、異文化間の相互理解に向けて心を開いていく。第59回日米学生会議によって生まれた豊かな人間関係は、必ずや日米両国の国境を超えたパートナーシップを実現すると同時に、太平洋の、そして世界の平和と安定をもたらす創造的な次代を切り拓く礎たり得ることだろう。

---

#### 事業概要

##### 【主催】

財団法人 国際教育振興会

##### 【開催地】

東京、秋田、広島、京都

##### 【企画・運営】

第59回日米学生会議実行委員会

##### 【参加者】

日本側36名（実行委員8名を含む）  
アメリカ側36名（実行委員8名を含む）

##### 【後援】

外務省、文部科学省、米国大使館、財団法人 国際  
ビジネスコミュニケーション協会、社団法人 日米  
協会、日米文化センター

#### 本会議概要

第58回日米学生会議の参加者から選出された実行委員が、日本側の主催団体である財団法人国際教育振興会、米国側はJASC Inc.の協力の下、本会議開催のための準備活動を行う。参加者が決定した後、所属分科会のテーマに関するレポートを作成し、講

##### 【本会議開催期間】

2007年7月26日（木）～2007年8月20日（月）

演会や勉強会、合宿などの事前活動を行い、夏の本会議に臨む。

本会議では、日米各36名、合計72名の学生が約1ヵ月にわたって共同生活を送る。本会議の主な活動として、討論が中心となる分科会、各種のフィールドトリップ、各開催地で開かれるフォーラムなどが挙げられる。参加者が7つの分科会に分かれ、第59回会議のテーマである「太平洋から世界へ～グローバルパートナーシップの探究と次代の創造～」の下、ディスカッションを行う。また、フィールドトリップでは、各自の視野を広げ討論の充実化を図る。さらに、本会議では議論にとどまらず、ホームステイやフォーラムなどにおいて積極的に地域の方々との交流を図っていく。フォーラムでは、分科会での討論の結果など本会議の成果を社会に向けて発信する。

本会議終了後には、参加者は会議の内容を報告書にまとめ、第59回日米学生会議の総括とする。各参加者は、本会議で得られた経験を胸に社会へと巣立っていく。

### 【分科会】

本会議において活動の中心となる分科会は7つ設けられており、日米双方からなる参加者が、本会議期間を通じて議論を重ねる。事前活動に加え、本会議中もフィールドトリップで関連機関や専門家を訪れるなど、議論の質の向上を目指す努力が続けられる。第59回会議における分科会は以下の通りである。

- ・ 開発：貧困撲滅への新たなアプローチ  
Innovative Approaches to International Development
- ・ メディア：グローバル社会の影響力  
Media Influence on Global Society
- ・ 暴力と平和：武力行使に対する価値観の再考  
Pacifism and Belligerence: Examining Different Perspectives on the Use of Force
- ・ 教育：次代を担う市民の育成

Creating a Global Citizen: Education Focused on International Concerns

- ・ ナショナリズム：国への思いと排外主義  
Nationalism: Patriotism or Xenophobia?
- ・ アイデンティティの社会学  
Opposed Identities: Ideology, Ethnicity, and Inequality in Conflict
- ・ 文化：グローバリゼーションの渦中で  
Eastern and Western Popular Art: Who is Imitating Whom?

### 【フィールドトリップ】

分科会の議題や各開催地に関する理解を深めることを目的に、政府機関、国際機関、企業、大学、NGOおよび研究所などへ訪問研修を実施する。事前活動におけるものと同様に、社会と直接関わることができる貴重な機会であり、現実に即した議論するための基礎とする。

### 【スペシャルトピック】

議題がすでに固定された分科会と異なり、参加者が個々の興味に沿った議論を自由に設定し、異なる視点からの議論を行なう。より広い参加者同士の交流を促し、新たな視点や発想の獲得により、会議をより充実させる。

### 【リフレクション】

参加者が一同に集い、会議中に感じた悩み、不安、感動、喜びなど、様々なことを自由に話し合う。自分の思いを全体に伝え、また他者の思いを共有することで、自己を振り返り、他の参加者との相互理解を促進することを目的とする。

### 【ファイナルフォーラム】

会議の最終開催地、京都で行われる。本会議における分科会の発表など、第59回日米学生会議の成果を提示していく。現代社会が抱える問題を来場者と共有し、会議の成果を社会に発信することを目標とする。

## 第59回日米学生会議日本側参加者名簿

日本側実行委員	大学	学部・専攻	学年	分科会
川口耕一朗*	東京大学	法学部	3年	
菅家万里江**	慶應義塾大学	文学部人文社会学科	3年	Global Citizen
杉山亮太	慶應義塾大学	法学部政治学科	3年	Pacifism & Belligerence
高井竜輔	東京大学	文学部フランス文学科	4年	Eastern & Western Art
廣瀬裕子	慶應義塾大学	経済学部	3年	International Development
松田浩道	東京大学	法学部	3年	Nationalism
三窪英里	慶應義塾大学	法学部政治学科	4年	Opposed Identities
安田雅治	千葉大学	文学部行動科学科	4年	Media Influence

\*は実行委員長、\*\*は副実行委員長を表す。

### 日本側参加者

伊関之雄	京都大学	経済学部	2年	International Development
上田 來	早稲田大学	政治経済学部政治学科	4年	Opposed Identities
上野良輔	海上保安大学校	航海科	3年	Pacifism & Belligerence
呉 宣咏	早稲田大学	国際教養学部	3年	Eastern & Western Art
角田亜沙子	一橋大学	社会学部	2年	Pacifism & Belligerence
加納康宗	東京大学	教養学部文科二類	2年	Nationalism
菊池なつみ	東京大学	教育学部	3年	Global Citizen
金 大鐘	早稲田大学	人間科学部人間情報科学科	4年	Media Influence
櫻 静香	一橋大学	商学部	3年	Opposed Identities
佐藤逸美	早稲田大学	国際教養学部	4年	Media Influence
篠原由香里	国際基督教大学	教養学部国際関係学科	3年	Eastern & Western Art
高野恭平	岐阜大学	医学部医学科	4年	Pacifism & Belligerence
竹内菜緒	国際基督教大学	教養学部国際関係学科	3年	Media Influence
武田尚樹	慶應義塾大学	経済学部	2年	Global Citizen
土岐吉史	立命館大学大学院	国際関係研究科	2年	Media Influence
平井麻祐子	青山学院大学	国際政治経済学部国際政治学科	2年	Opposed Identities
廣田隆介	慶應義塾大学	法学部政治学科	3年	Opposed Identities
古屋佑樹	東京大学	法学部	4年	International Development
堀 沙織	東京大学	文学部哲学科	3年	Eastern & Western Art
本郷亜紀	立命館大学	法学部国際比較法専攻	2年	Global Citizen
間嶋絵梨	金沢医科大学	医学部医学科	4年	Eastern & Western Art
間橋大地	立命館アジア太平洋大学	アジア太平洋学部	3年	International Development
望月進司	東京大学	教養学部文科一類	2年	Nationalism
李 凌叡	東京大学	法学部	3年	Nationalism
山本詩乃	福井大学	教育地域科学部地域社会過程	4年	Global Citizen
吉川真由	京都大学	農学部食品生物科学科	3年	International Development
渡辺恭子	広島市立大学	国際学部国際学科	3年	Pacifism & Belligerence

Global Citizen=教育:次代を担う市民の育成、 Eastern & Western Art=文化:グローバル化の渦中で、 International Development=開発:貧困撲滅への新たなアプローチ、 Nationalism=ナショナリズム:国への思いと排外主義、 Media Influence=メディア:グローバル社会の影響、 Opposed Identities=アイデンティティの社会学、 Pacifism & Belligerence=暴力と平和:武力行使に対する価値観の再考

## 第59回日米学生会議アメリカ側参加者名簿

アメリカ側実行委員	大学	学部・専攻	学年	分科会
Kendall Jackson	Oklahoma University	German	Masters	Global Citizen
Justin Long	Cornell University	China-Asia Pacific Studies	Junior	Opposed Identities
Alissa Marque	UC Berkeley	Pol. Science/Japanese	Senior	International Development
Brian Miller	Sonoma State University	Int'l Business Management	Senior	Media Influence
Hiroyuki Miyake**	Macalester College	Economics/Mathematics	Sophomore	Nationalism
Andrew Ruffin	Duke University	Public Policy/Japanese	Sophomore	Pacifism & Belligerence
Casey Samulski	Sarah Lawrence College	Writing	Senior	Eastern & Western Art
Morgan Swartz*	Kalamazoo College	International Studies	Post Grad.	

\*は実行委員長、\*\*は副実行委員長を表す。

### アメリカ側参加者

Bryan Beaudoin	Cornell University	College Scholar	Junior	International Development
Brad Bower	Kalamazoo College	Economics/Business	Sophomore	Eastern & Western Art
Maureen Campbell	Furman University	History/Asian Studies	Junior	Opposed Identities
Susannah Davidson	UC Berkeley	Japanese	Freshman	Media Influence
Lindsey DeWitt	Univ. of Washington	Comparative Religions	Masters	Global Citizen
Jasmina Dizdarevic	Barnard College	Human Rights/East Asian Studies	Freshman	Nationalism
Jennifer Eusebio	Univ. of Michigan	Creative Writing & Literature	Senior	Global Citizen
Jessica Hutchins	Fashion Institute of Tech.	Fashion Merchandising	Sophomore	Media Influence
Gurpreet Kalra	Univ. of Pennsylvania	Political Science/English	Junior	International Development
Mary Lancaster	New College of Florida	Literature	Junior	International Development
Jessica Lee	Harvard University	East Asian Studies	Masters	Pacifism & Belligerence
Tsz "Jess" Kiu Liu	UC Berkeley	Mass Comm./Political Science	Senior	Media Influence
Bethany Marsh	Univ. of Washington	Japan Studies	Masters	Media Influence
Rachel Mason	Kalamazoo College	Economics/Business	Freshman	Nationalism
Alison Miller	University of Kansas	Art History	Masters	Eastern & Western Art
Mia Monnier	Middlebury College	Undeclared	Freshman	Global Citizen
Aya Nakanishi	Univ. of Pennsylvania	Psychology/Hispanic Studies	Sophomore	Eastern & Western Art
James Pillar	University of Kansas	Japanese	Senior	Pacifism & Belligerence
Jazmine Rodriguez	Tulane University	Int'l Development/Anthro.	Sophomore	International Development
Josh Schlachet	Cornell University	Asian Studies/History	Junior	Pacifism & Belligerence
Samantha Scully	Bowdoin College	Asian Studies/History	Sophomore	Opposed Identities
Hidemi Tanaka	Macalester College	Political Science	Sophomore	Global Citizen
Marquita Taylor	North Central College	Print Journalism	Junior	Eastern & Western Art
Josh Turner	University of Hawaii	Japanese	Junior	Pacifism & Belligerence
Ryan Urie	University of Idaho	Philosophy	Senior	Nationalism
Danielle Vokal	Univ. of Wisconsin	Ed Leadership/Policy Analysis	Ph.D.	Opposed Identities
Nancy Xu Yang	Harvard University	East Asian Studies	Sophomore	Nationalism
Sophia Yang	Monterey Inst. of Int'l Studies	International Policy Studies	Masters	Opposed Identities

## メディアの中の第59回日米学生会議

第59回日米学生会議実行委員会は、より多くの方に日米学生会議の存在を知っていただくために、様々なメディアを通じた広報活動を行ってきた。本会議中にも取材を受け、記事として取り上げていただいた活動やイベントもあった。以下に掲載するのはその主なものである。(記事は3章にも掲載。)

- ・『京都新聞』2007年1月24日「共に暮らし、共に語ろう」
- ・『秋田魁新報』2007年2月4日「第59回日米学生会議 本県開催へ準備進む」
- ・『秋田魁新報』2007年2月7日「本県で日米学生会議」
- ・『秋田魁新報』2007年2月9日「日米学生会議 秋田開催に」川口耕一郎
- ・『毎日新聞』2007年2月9日「日米学生会議講演会」
- ・『中国新聞』2007年2月15日「広島など4都市で今夏日米学生会議」
- ・『岩手日報』2007年2月20日「日米学生会議参加者募集」
- ・『山陽新聞』2007年2月21日「日米学生会議開催へ」
- ・『中国新聞』2007年5月24日「日米広島学生会議被爆地の声出そう」
- ・『秋田魁新報』2007年7月19日「国際理解を深めよう」
- ・『育英ニュース』2007年7月20日「国のアイデンティティを超えた繋がり」
- ・『週刊アキタ』2007年7月27日「秋田で初の日米学生会議」
- ・『どまん中』AKT秋田テレビ 2007年8月3日放送「日米学生会議秋田フォーラム」
- ・『北羽新報』2007年8月4日「白神通じて環境学ぶ」
- ・『秋田魁新報』2007年8月4日「秋田の伝統を体感」
- ・『北羽新報』2007年8月5日「雨の白神山地も格別」
- ・『秋田魁新報』2007年8月5日「地域との交流深まる」
- ・『NEWSリアルタイムあきた』ABS秋田放送2007年8月8日放送「日米学生会議フォーラム」
- ・『朝日新聞』2007年8月9日「秋田訪問の米学生」
- ・『読売新聞』2007年8月9日「日米の相互理解深める」
- ・『秋田魁新報』2007年8月9日「日米学生会議フォ

ーラム」

- ・『中国新聞』2007年8月11日「広島で日米学生会議開幕」
- ・NHK各地のニュース 日本放送協会 2007年8月13日放送「日米広島学生会議」
- ・『中国新聞』2007年8月14日「広島で日米学生会議シンポ」
- ・『イデチャンネル』AKT秋田テレビ 2007年8月17日放送「第59回日米学生会議」
- ・『京都新聞』2007年8月18日「京でフォーラム、両国学生が意見発表」
- ・『京都新聞』2007年8月19日「日米学生会議 伏見で交流会」

他、大学新聞や地域広報誌など

◆日米学生会議参加者募集  
7月26日から8月20日まで、東京都、秋田県など全国4カ所で開催。国際教育振興会主催。「太平洋から世界へ」グローバルパートナーシップの探究と次代の創造」をテーマに、日米両国の学生が共同生活を通して議論を重ねる。募集は28人。書類と面接、教養試験で選考する。希望者は日米学生会議のホームページ(<http://www.jasact-apan.com/>)から申し込む。2月28日締め切り。問い合わせは事務局(03・3・9566003)へ。

『岩手日報』2月20日

日米学生会議  
参加者を募集

国際教育委員会

財団法人・国際教育振興会が、「太平洋から世界へグローバルパートナーシップの探求と次代の創造」をテーマに開く第五十九回日米学生会議の日本側参加者二十八人を募集している。

七月二十六日から八月二十日までの一カ月間、東京、秋田、広島、京都を回って共同生活をしながら、米国の学生と経済や教育、テロ、ナシヨナリズムなどについて討論。ホームステイやフォーラムなど地域住民との交流も行う。

大学生・大学院生などが対象で、申し込み・問い合わせは同会議のホームページ [www.jasac-japan.com](http://www.jasac-japan.com) (http://www.jasac-japan.com)。締め切りは七月二十八日。四月上旬に参加者を決定、春学期(五月三・五日)や事前活動、直前合宿(七月二十五、二十六日)などがある。同会議は一九三四年の創設で、宮沢喜一元首相も参加した。日米で交互に関かれ、両国の学生が主体的に企画・運営にあっている。

『山陽新聞』 2月24日

広島など4都市で  
今夏日米学生会議  
参加者を募集

国際教育委員会

国際教育委員会(東京都)は、七月二十六日から八月二十日にかけて広島、東京、京都、秋田の四都市で開く「日米学生会議」の参加者を募集している。

難力と平和、開発、ナシヨナリズムなどをテーマに、日米の学生が意見を共にしながら意見交換する。広島市では八月中旬に「櫻井閣と平和」と題したシンポジウムを開く。五、七月に事前合宿もある。参加費は十二万円。

面接や英語の選考試験を経て、四月上旬に参加者(二十八人)を決める。対象は大学、短大、高等専門学校などのもので、留学生も含む。締め切りは七月二十八日。日米学生会議のホームページを通じて申し込み。事務局 ☎03(3355)0563。

『中国新聞』 2月15日

『京都新聞』 1月25日

共に暮らし、共に語ろう

と会議経括のフォーラムも予定している。

日本と米国の学生が一月の間、共同生活を送りながらさまざまな問題について議論する「日米学生会議」が今夏、京都市など全国四会場で開催される。同会議実行委員会は二月一日から参加者を募集する。

毎年、日米交互で開催している。今年は「太平洋から世

日米学生会議  
参加者を募集

界へグローバルパートナーシップの探求と次代の創造」日米インターネットhttp://www.jasac-japan.comで受け付ける。定員がテーム。七月二十六日に東京で開幕し、秋田、広島と移動する。最終地の京都は八月十三日から一週間の日程で、立命館大衣笠キャンパスで七分会議を開催する。環境問題 (Environment) Open入。

今夏 京など4会場で開催

第1章 第59回日米学生会議概要



『JASC前 上見れば 混乱の渦巻き JASC後 上見れば すっきり晴れ渡る空』伊関之雄

